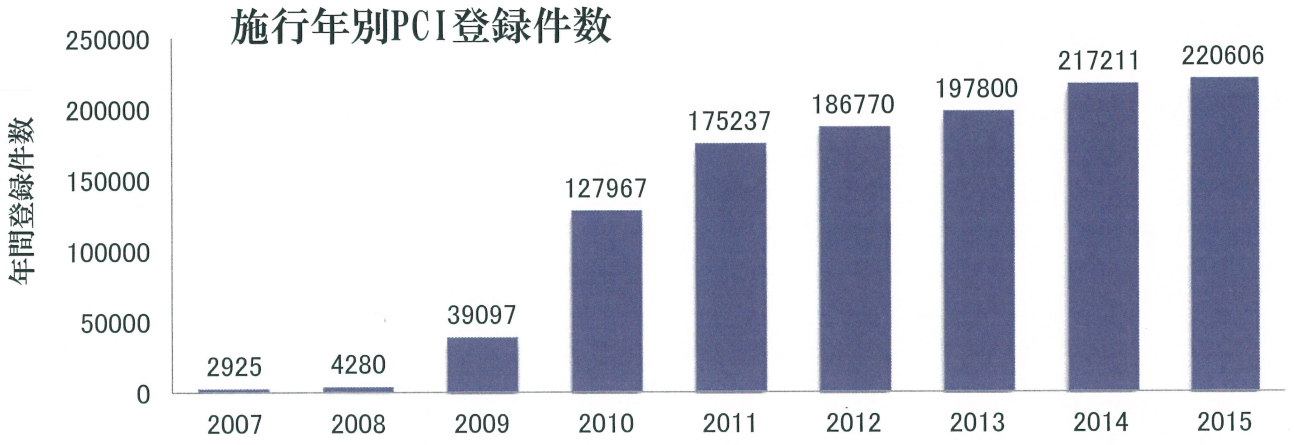
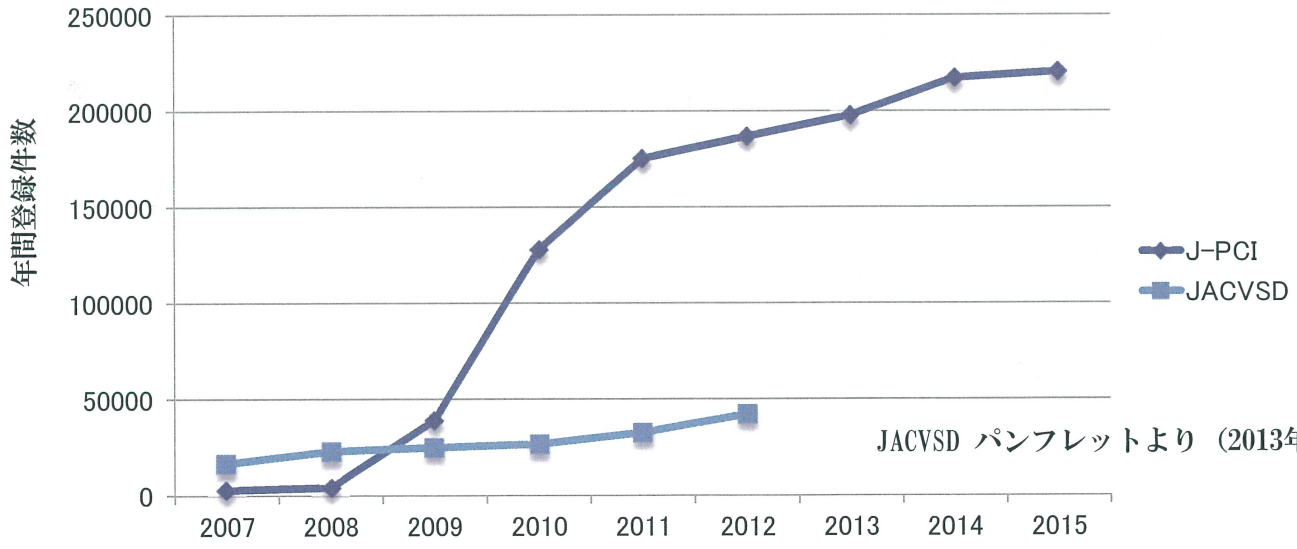
J-PCIレジストリー 2015 集計結果

2015/1/1-12/31

897施設より220,606例



JACVSD（バイパス手術データ）との比較



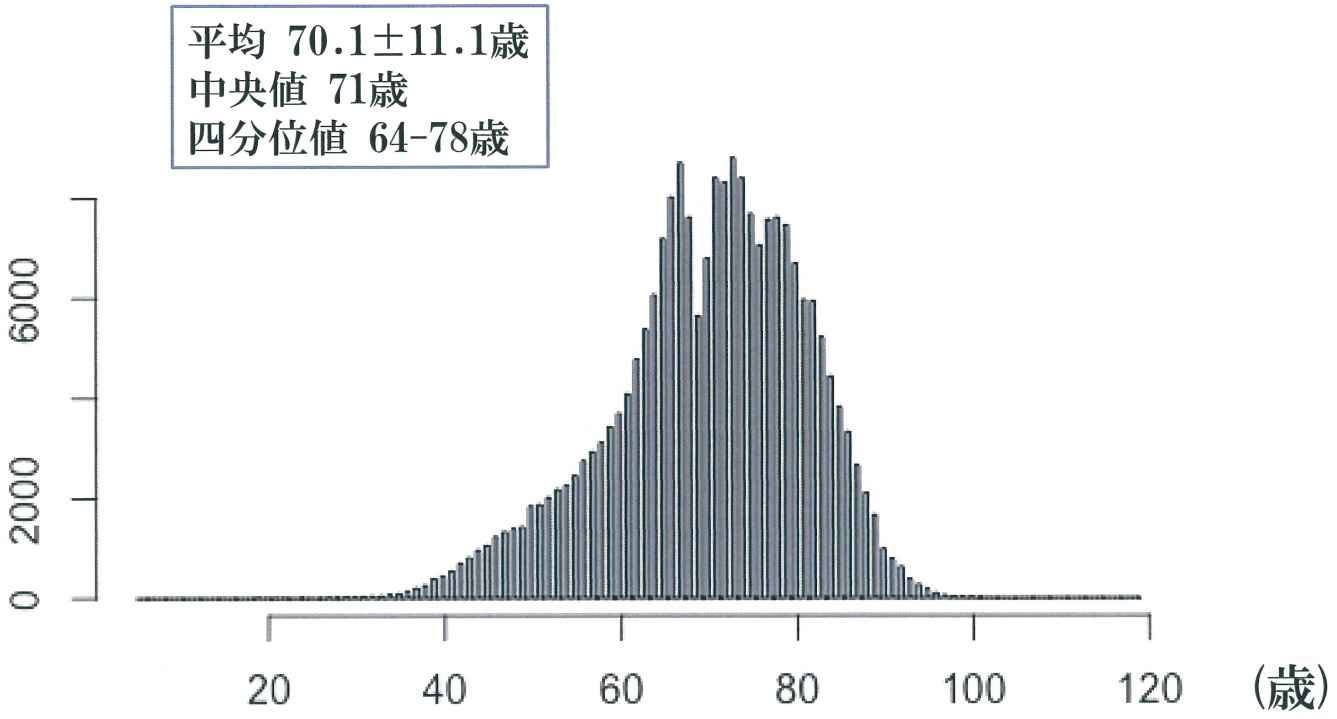
JACVSD パンフレットより（2013年4月発行）

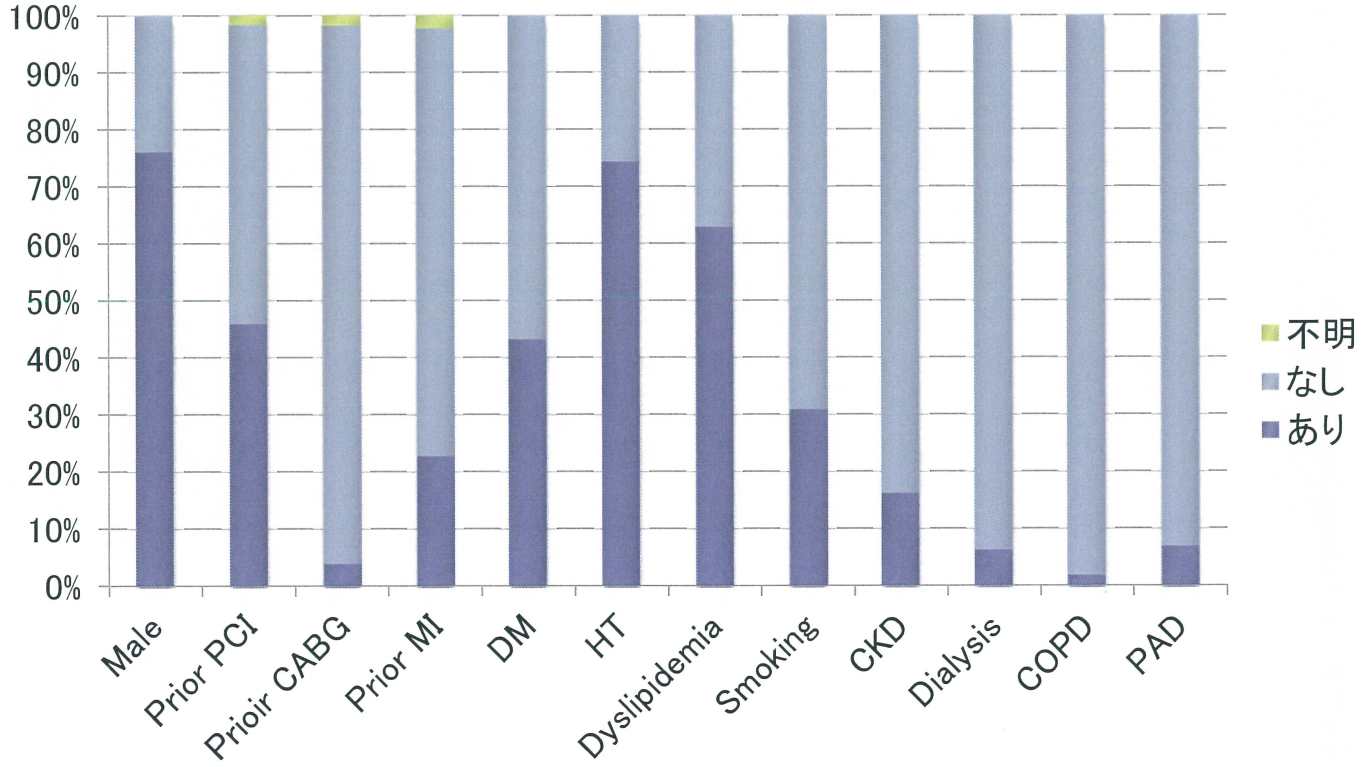
学術レジストリ小委員会 および 専門認定制度審議会レジストリ小委員会 内
実務担当 Working Group

猪原　拓（解析担当）、飯田　修、白井伸一、香坂　俊、藤井謙司、天野哲也

2016/6/15 ダウンロードデータより

患者背景に関する集計

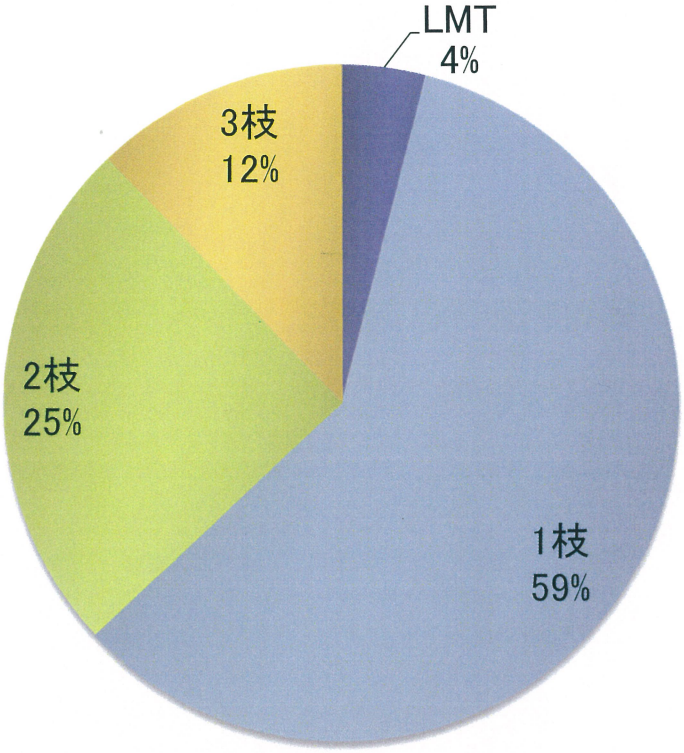




平均年齢に関してはここ数年大きな変動は認められていない。患者背景に関しても同様である。

入院時病変枝数

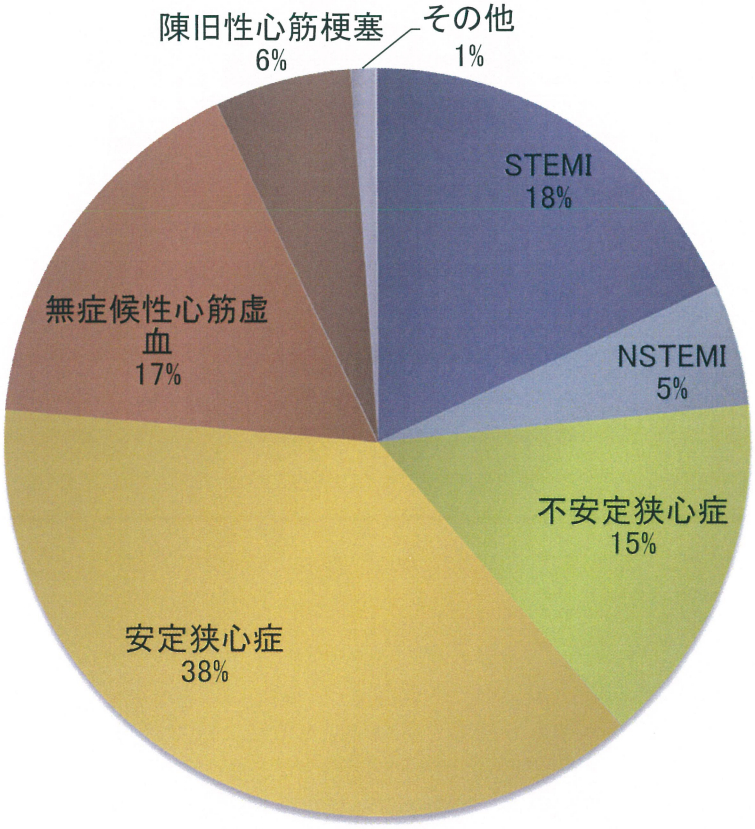
N=220,606



昨年のデータと比較し、±1%以内の変動に留まっており、ここ数年の範囲で見ても大きな変動はみられない。

ガイドライン上でもその是非に関する議論が行われているLMT 症例の割合（**4%**）については、今後注意深く動向を見守っていく必要があろうかと思われる。

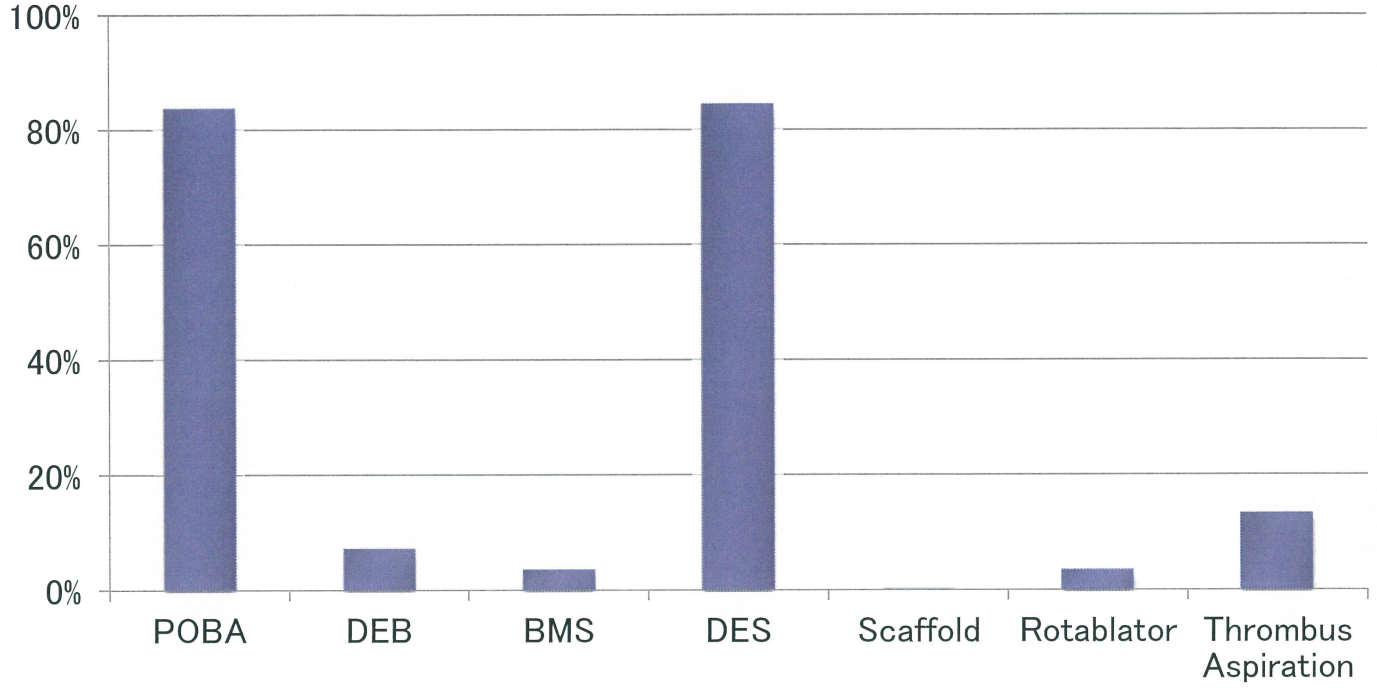
入院時診断名

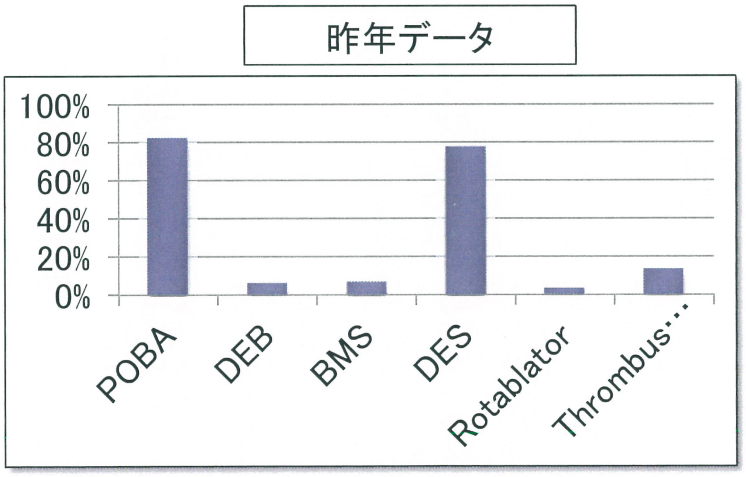


入院診断名についても、昨年のデータと比較しそれほどおおきな変動は認めていない。

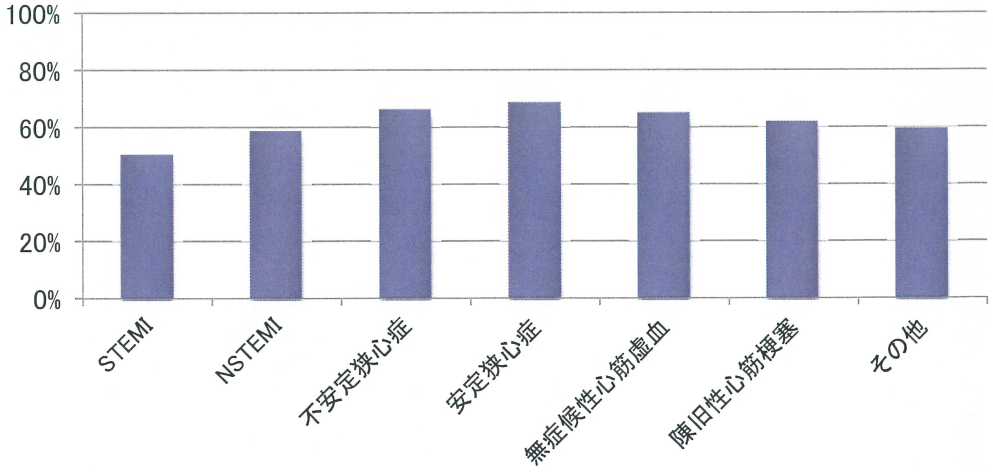
欧米のデータと比較するとACS 等急性期症例が 10%程度少なく、その分無症候性あるいは陳旧性心筋梗塞等の症例の割合が多くなっておりこれは継続的なトレンドとしてみられていくものと思われる。

使用デバイス割合





使用されるデバイスの種類にも大きな変動は認められていないが、DEBの使用頻度が上昇している。またBMSの使用頻度が減少し、DESがより使用される傾向にある。
また本年よりScaffoldの登録が始まっている。使用割合は現時点ではわずかであるが、今後増えていくものと推測され、その適切な使用の確立に向け検証を続ける予定である。

橈骨動脈アプローチの割合（%）

最後に撓骨動脈をアクセスサイトとするPCI の割合を診断名別に記す。
昨年と比較し、TRIの選択が増加している。特に緊急症例でその傾向が顕著であり、約10%の増加を認めている。